

令和４年度能代市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和４年１２月１６日（金）午前１０時～１１時

2 場 所 能代市役所二ツ井町庁舎 ２階 大会議室

3 出席者 能代市長 齊 藤 滋 宣

能代市教育委員会

教育長 高 橋 誠 也

委 員 木 村 高 寛

委 員 西 村 省 一

委 員 中 嶋 佐千子

※委 員（欠席）寺 田 恵美子

教育部

教育部長 伊 藤 勉

教育部次長 関 俊 英

教育総務課長 柳 谷 敬

能代教育事務所長 本 間 将

学校教育課長 矢田部 瑞 穂

学校教育課参事 三 洲 龍 太

学校教育課指導主事 藤 田 元 之

学校教育課指導主事 柴 田 裕 彦

学校教育課指導主事 大 山 祐 子

学校給食センター所長 工 藤 久美子

生涯学習・スポーツ振興課

文化財保護室長 山 崎 和 夫

教育総務課長補佐 秋 林 純

4 案 件 能代市教育等の振興に関する施策の大綱（素案）について

【開会】（教育部長）

開会に先立ち、寺田委員より、所用により欠席させていただく旨、連絡があり、能代市教育等の振興に関する施策の大綱（素案）についての意見を預かっているので、後程報告する。

令和４年度能代市総合教育会議を開会する。

【市長あいさつ】（市長）

現教育大綱が、今年度で終了するため、教育委員の皆様方にご意見を頂戴し、それを参考にして、市議会やパブリックコメントの意見等も伺いながら、来年度からの新たな大綱を策定していきたいと思っている。

限られた時間であるが、忌憚のないご意見を頂戴できれば大変ありがたい。

この場をお借りし一言お礼申し上げたい。小学校、中学校を教育委員の皆さま方と訪問したが、どの学校に行ってもごみ一つ落ちていない。子どもたちが伸び伸びと明るく育ち、そういう教育環境を作ってくれていることが自慢であり、我々の未来を担う子どもたちが、明るくしっかりと育っているのは、教育委員の皆様方のおかげである。これからも、子どもたちが伸び伸びと明るく育つよう、お力添えをいただきたい。

家庭で、学校で、地域で、そして行政がサポートすることが、大事なことだと思っている。子どもたちの教育をしっかりとすることは、未来への投資だと思っている。財政状況が厳しい折ではあるが、重要課題の一つとして、子どもたちの教育にこれからも力を入れていきたいと考えている。

そして、教育とは、教えることだけではなく育むことも大事であるため、知識を身に付け、それを生かす知恵をもつことが、今後、子どもたちの成長に繋がると思っており、そういう教育を目指し我々も頑張って参るため、教育委員の皆様方の力をお借りしたい。

【教育長あいさつ】（教育長）

現教育大綱は、平成27年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により策定された大綱を、平成30年に第2次大綱として改定されたもので、今年度末をもって終了となることから、新たな大綱をまとめるものである。

この5年間の本市の総合教育会議において、幼保小の連携、特別支援教育、ICT教育、そして学校、家庭、地域連携、コミュニティ・スクール等、時代に即した課題に向き合い、大綱に沿った形で、子供たち、市民のために、より良い教育について考え、前進してきたと思う。

本日は、今後の5年間を見据え、素案についてのご意見をいただきたい。

【案 件】（教育部長）

これ以降の会議については、能代市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づき、市長が議長として進行する。

○議長（市長）

次第3の案件「能代市教育等の振興に関する施策の大綱（素案）について」説明を願う。

○教育総務課長

《資料により説明》

○議長（市長）

ただ今の説明について、皆様方からご意見を頂戴したい。木村委員から願います。

○木村委員

大綱ということで、そんなに内容的には、変更する必要はないだろうと思う。

27年度から「学び合う 感謝と思いやりにあふれる“わ”のまち能代」という、これも継続してきた活動であり、先般行われた能代っ子中学生ふるさと会議で、子ども達の中にも、この思いが伝わっていると感じた。よって、大綱として大きな変革はいらないと感じている。

今後5年ということを考え、今の時代、社会情勢を、少し加えてはどうか。大綱の位置付けで、教育の目標や施策の根本的な方針であること、国、県、市の各種計画と整合性を図ること、これは十分に理解できる。ただ、国と市という、地域の人口の格差、子供の数のことを考えると、成すべきことは、具体的にしなければなるほど異なってくる。例えば、二ツ井町を例にとると、今年生まれた子が現在で5人、この世代の小学校入学式では5人プラスαだと思うが、都市部の何百、何千人の新入生の数を見ると、同じ施策を持っていいのか。この少子化というのは、大きな課題になっていくだろうと思う。

もう一つは、時代的にコロナという、この文言をどこかに入れてもいいのではないか。5年後、この施策を見た際、あの時はコロナがこうだったと伝わるよう、2ページの基本方針（理念）の少子高齢化のところへ「新型コロナウイルスの感染拡大の中、コロナ禍のそのものを見据え策定した」というような形で、言葉を加えたらどうか。

そして、後ろから2行目、このコロナ禍において、考え方を尊重し合いの次に、とりわけ大切なことは、「周りの人々の辛さや切なさに心を重ね合い、支え合って生きていくことができるまちを目指します」というような、より思いやりを具体的な言葉にしていきたいと思う。

それと、基本目標の一番目に、学校、家庭、地域、行政が一体となった、を掲げており、重い位置付けであることから、力を入れ、まちづくりや教育活動を行っていくべきと思う。

そして、3ページ、インクルーシブ教育システムの構築とあるが、障害のある子どもたちは、様々な手助けが必要だと思う。その子どもたちに必要な教員と設備が整った普通学級を、誰もが通える普通学級をまず目指し、そういう環境づくりをする。もしかしたら、法や予算等規制があるかもしれないが、そこを目指した上で、就学時健診の時に、様々な医療関係、専門医の方々と、就学先を検討していく。最初から特別支援学校、支援学級ありきではなく、そういう、インクルーシブ教育であって欲しいと思う。

同ページ、⑤番の安全安心な学校教育、この中に、児童生徒が楽しくて安全安心なという、「楽しい」という言葉を入れたら学校というイメージが変わってくるかなと感じ、個人的には入れたいと思っている。

4ページのふるさとの文化の継承と、について、ふるさとの誇りを守り伝えるため、郷土の伝統、守り伝えるために、誇りを持つために、家族に対する責任感、愛する人への責任感、郷土に対する責任感、そこに、自己存在が見えてそして誇りを持てる。これが育まれて初めて、郷土ふるさとを愛するということに繋がっていくのだと思う。

それから、5ページ、スポーツで輝く夢のあるまちづくり。5年後、今の中学校でいう部活動が、少子化によってスポ少に変わっていく流れが現実的になっていく。そのことを、もう少し具体的に目指すものを、示してもらいたいと感じている。

はじめに申したが、大綱としての文言はこれで整っていると思っているが、具体的に大綱が人々に伝わるよう、そんな文言を加えていきたいなと感じたものである。

○議長（市長）

教育部から、木村委員の発言に対して、考え方を示していただきたいと思う。

○教育部長

基本理念の部分について指摘をいただいた。以降の部分についても関連したことになるが、いただいた意見について、十分尊重していきたいと考えている。その上で、具体的な

文言については、事務局で精査、検討し、コロナの影響については、今後も見通せない状況にあることも考慮していきたいと考えている。

○学校教育課長

インクルーシブ教育システムの構築についてであるが、能代市として実施しているものが、大きく2点ある。

1点目は、特別支援教育指導員と支援員を、合計40名配置しており、普通学級で学んでいる子供たちが困り感を持っている時、学習面や生活面でサポートできる体制を整えている。

2点目は、特別支援教室というのを、東京都豊島区に倣って設置している。学級や集団の中に溶け込めず困っている子供たちを、別の教室で授業を行い落ち着かせ、また普通教室へ戻すという形のもので、子供たちの心の安定に繋がってきていることから、インクルーシブ教育システムの構築をさらに図っていききたいと考えている。

⑤番の児童生徒が楽しいという言葉については、精査して参りたい。

○議長（市長）

次に、西村委員からお願いします。

○西村委員

次期大綱の素案について、これまでの大綱から、現在の能代市の現状、そして今後5年間に即した内容になっていると思う。文言については特にはないが、能代っ子中学生ふるさと会議で、市長が講評で話された、基本理念「学び合う 感謝と思いやりにあふれる

“わ”のまち能代」。この“わ”のまち能代は、大分定着してきており、更に、推し進めていくべきと思っている。特に、基礎学力の向上を図る学習指導、ICTを効果的に活用することなどは、未来社会に向かった学校教育に繋がっていると思った。このことは、国の教育振興基本計画の中にある2030年以降の社会を展望した教育「超スマート社会の実現」にもつながる。IoT、人口知能AI、ロボットなどの最新技術を活用することで、私たちの社会を、バージョンアップする。必要なもの、サービスを、必要な人に必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応して、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き生きと快適に暮らすことのできる社会が「超スマート社会」である。現在、スマートフォン、パソコン、カーナビ、電化製品など非常に便利な社会であるが、近未来には、車の自動運転、空飛ぶタクシー、ドローン、ロボット等、次々と技術革新され、更に新しい社会が到来、実現しそうである。

話が逸れるが、サッカーのワールドカップを私も応援した。あのよう、世界中が熱狂している映像を見ると、根底にはやはり、ふるさとを思う心があり、外国人も一緒である。

子供たちは、これから、ますます変化の激しい時代を生き抜く必要があり、知識や、技能だけでなく、大綱にもあるとおり、感謝と思いやり溢れた豊かな心と、困難にもめげない、耐えるたくましい心も必要で、この心が、他者との協力協働しながら、課題を解決するという力に繋がっていくと思う。

能代市では、いち早くICTを活用し学びの環境を変え、グローバル化に対応した英語教育も進められているが、こういったことが、今後ますます重要な位置付けになってくる

のではないかと思った。

○議長（市長）

教育部から、意見を願います。

○教育部長

西村委員から、ICTに関わる技術の変革について意見をいただいたが、能代市の学校教育等において、令和2年度にタブレットを導入し、各学校において、率先して活用している状況にある。ただ、一方で、それは一つのツール、手段であって、目指すところは、一人一人の人間性だったりというものが、今までと同じように、必要になるのではないかと感じている。

○議長（市長）

子どもたちは今のICTとか、タブレット等、何でもすぐに使えると思うが、先生方についていくのに大変だと思う。まず、その先生方のサポートをどのようにやっているのか。今これだけデジタル社会が、目まぐるしく発達していく中で、教育は、ある意味アナログ的な教育というものに立ち返ることもなければならないのではとも思うが、その辺はどうか。

○学校教育課長

教職員のサポート面で、ICT支援アドバイザーを配置し、各校を巡回支援するとともに、中核となる教員を各校に1名指定しており、その教員が指導することで、タブレット等の機器の操作を苦手としていた教職員も、かなりできるようになってきている。

○教育長

アナログという部分について、例えば板書やノート指導については、やはり、どんなにICTが発達しても、必要なものと考えている。教職員のこれまで培ってきたノウハウや、子どもも、タブレットだけでは学べない部分もあるため、大事にしていかなければならないものと考えている。

○議長（市長）

次に、中嶋委員から願います。

○中嶋委員

前回の大会策定後に、能代市総合教育会議で話し合われた内容、幼保小の連携、特別支援教育、ICT活用のメリット、学校、家庭、地域の連携教育の推進、こちらが素案に含まれているので評価したいと思う。

また、発達障害について、先日、文科省の調査で、通常学級に在籍する小中学生の8.8%に、発達障害の可能性があるということが分かった。発達障害は、早期の発見がその後の支援の困難さの軽減に役立つとされており、能代市のインクルーシブ教育、豊かな人間性を育む学校教育の推進が今、そしてこれからの必要な施策だと思う。

また、今後の部活動の地域移行が進んでいく状況にも配慮して、スポーツクラブ等への

支援と列記していることも、評価したい。

ふるさと文化の継承と文化芸術の振興、子どもの文化体験を推進することにより、世代間交流を促し、あらゆる世代が、共に文化芸術を楽しむ場を作ることなど、以前の大綱より文化に触れること、世代間交流を深めることが、具体的に分かりやすくなっていると思う。文化に触れるということは、自分自身を高め、精神的な安定に繋がると思う。

今、現在、そして、目まぐるしく変化する世の中の流れに沿った素案だと思うが、他の委員方、またパブリックコメント等で意見を伺いながら、大綱の策定を進めていただきたい。

○議長（市長）

教育部から、意見をお願いする。

○教育部長

それぞれ五つの基本目標について、見直すべきところは見直すとして、素案を作成した。例えば、インクルーシブ教育について、これまでの能代市としては、率先して、県内でも先進的な取組をしてきていると考えている。8. 8%の数字についても、本市においても全国と同様なデータにあると確認しており、そういった中で、ステップ等の場を設けるなど、率先し取り組んでいく状況である。

また、来年度から、中学校の部活動の地域移行についても、今まさにこれから取り組もうとしており、まずは、スポーツの方から順次、段階的にこの地域に合った体制を構築したいと考えている。

○議長（市長）

寺田委員が欠席されているが、書面意見を預かっているとのことなので、お聞かせ願う。

○教育総務課長補佐

寺田委員の書面意見を代読する。意見の中に、質問事項も含まれているが、最後の方で述べる。

現行の大綱を大切にしながら、この5年間の教育がしっかり点検・評価され、課題を見だし再編（策定）された素案であると思う。国、県の動向を踏まえた上で、時代の流れや変化に応じた能代市らしい大綱となっていると感じる。現行のものに、より具体的でわかりやすい必要な文言が補われ、家庭教育を重んじ、よりよい親子関係の構築に重点を置きながら、市民一人一人の生涯に渡る学びを保障しようとする想いを感じる。

学び（教育）は、一生涯に渡るもので、教育の成果もすぐに表れるものもあれば、長年に渡り、積み上げられたものが成果となって表れるものもある。大綱が、長期的な能代市の教育の根幹となることに期待したい。

大綱の進行管理をしている能代市教育委員会事務点検・評価報告書を拝見し、関係する教育機関、各課の方々の実直な作業と教育振興への真摯な思いや熱意を感じており、このような点検・評価の体制は大事にしてほしいが、大変な時間と労力のいる作業であることから、分散化や簡略化を検討してはどうか。

パブリックコメントを募り、市民の考えや意見も傾聴していくとのことだが、大綱はもちろん、能代市の教育に興味、関心を持っていただくよう、情報発信、情報提供は大事な

と思う。多くの市民に能代市の教育の考え、想い、願い、恵まれた教育環境であること、そのような教育を受けられてきたことで、自分が生きられていることを感じてほしい。

質問事項だが、大綱（素案）4ページの4 ふるさと文化の継承と文化芸術の振興についての①子どもの文化体験活動支援の部分で、相談体制を整えることにより、とあるが、相談は誰から誰にされるものか、相談体制が必要とされる経緯や理由、この文言を加えた真意を伺いたい、とのこと。 教育委員 寺田恵美子 代読です。

○議長（市長）

寺田委員の意見で、相談体制のことを質問しているが、教育部からご意見をお願いします。

○生涯学習・スポーツ振興課文化財保護室長

子どもたちを対象とした文化芸術体験活動には、各小・中学校が企画する文化芸術鑑賞事業や、国や県主催の体験・鑑賞事業、民間の文化団体等が主催する教室や体験活動等があるが、社会教育中期計画の策定過程において、関係者から文化芸術振興における次世代の育成の取組にあたり、学校側が事業企画の相談をしたり、情報提供を受けたりする窓口が明確でないとの指摘があった。

芸術文化や伝統文化の鑑賞・体験活動の実施に際して、実施団体及び学校からの多岐にわたる相談に対応する窓口を整理し、関係団体、各担当部署等へのつなぎ支援をしたいと考え、このような表現としたものである。

○議長（市長）

後ほど、寺田委員にもお知らせ願う。

次に、教育長からお願いします。

○教育長

今回の策定に関し、大綱の理念は踏襲し、目標に若干の修正を加え、分かりやすくなった。また、家庭教育の支援、インクルーシブ教育、安全安心、トップアスリートから学ぶことや、文化財保存施設の今後の活用について触れており、今後5年間で向き合うべき事項についても、より分かりやすくなったと感じている。

能代市が長年に渡り関わってきた宇宙の事や、素晴らしい施設である子ども館のことについて、おそらく、3番の学びの場づくりの推進のところに入るのだろうが、もう一つ下の段階へ落とし込む際に、ここに位置付けられているのだということを、答えられるようにしておく必要があると思った。

この先の5年間、家庭教育についての踏み込みというか、相談、啓発、支援の充実や、中学校部活動の地域活動への移行について、具体的なところへ下ろしていかなければならないと思ったところである。

○議長（市長）

最後に、総括であるが、大綱の素案作成については、各委員から、概ねこのままでいいだろうとのことであるので、このまま作業を進めていただきたいと思います。

私は、皆さまの意見を聞き、本市の子どもたちはよく育っていると思った。教育現場で、教える、育むというところを、しっかりとやっていただいていると思っている。

基本目標の、学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりであるが、学校だけが子どもの教育を担うのではなく、やはり一番最初はまず家庭だろうと思う。家庭があり、さらには地域があり、そして学校があつて、行政が絡んでいく形が理想だと思うのだが、これをどうやっていくのか、誰が主体としてやっていくのかということが大事だと思う。今の子育て環境は、隣の家の子どもの何か悪いことをした場合、それを我々が怒れば、逆に我々が怒られるような、私が育った時代と今の時代は完全に変わってしまった。少子化の中で、地域社会が子どもを財産として育てていくには、なかなか難しい環境だと思う。

こうした中で、学校と家庭とでは、それぞれの教育方針が違ふだろうし、地域が支え、担っていかなければならない教育というのも違ふでしょうから、ここを誰がどうやって、どうしていくのか具体的に出てこなければ踏み込めない。ただ、そのことを学校に任せていいのかという気もする。ですから、行政が関係各位と話し合う機会を持ち、四者が一緒になって、子どもたちの能力を高め、さらには人間性を育んでいくことを考えたとき、何が一番効果的か、どのようにやったらいいのか、みんなで考えて知恵を出すしかない。教育部や教育委員の皆さんの意見をいただきながら、検討しなければならないと思っている。

いずれにしろ、子どもたちが立派に育っているのは、教育環境の整備、地域でのサポート体制など、色々な要素があつてできていることだと思う。冒頭で話した、未来への投資をしながら、子どもたちが、より健やかに、大変明るく、元気に育つように、頑張りたいと思うので、今後ともよろしくお願いしたい。

意見も出尽くしたようであるが、大綱については、今のまま作業を進め、いただいた意見については教育部でしっかりと検討し、教育現場に返したり、教育行政の中に活かしたりしていただければ大変ありがたい。

本日の案件については、すべて終了したので、閉じさせていただく。

【閉会】（教育部長）

令和4年度能代市総合教育会議を閉会する。

【事務連絡】（教育総務課長）

文言の方は精査させていただき、1月から2月にかけてパブリックコメントを予定している。その後、パブリックコメントで意見等あれば、再度この会を開催し、最終案を示したいと考えている。